

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学
中期目標期間（平成18－22年）に係る
業務実績に関する評価結果

（全体評価）

（大項目評価）

平成23年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として中期計画を順調に実施している。

判断理由

○大項目ごとの評価は、「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」のいずれの項目も、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

○大項目の特筆すべき事項の代表的なものとしては「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目において、「サービ斯拉ーニング」の開設やインターンシップの単位化など、地域社会の連携を強化し、社会的活動に積極的に参加する意欲と実践力を育成したこと、美術科にプロダクトデザイン分野の科目を新設し、キャリア能力の育成に力を注いだこと、竹田市の廃校となった小学校を利用した「竹田キャンパス」を、市民と学生の交流拠点として様々な利用形態で活用したこと、芸術系学科では、学士の学位取得や大学院の進学が可能となる2年制認定専攻科を新設したこと、また、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」の項目において、広報室を設置したことにより、積極的に大学情報を発信し新聞各紙に多くの記事が掲載され、大学の活動をアピールしたことなどがあった。

○以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として中期計画を順調に実施している」とした。

<委員会からのコメント>

- ・大分県立芸術文化短期大学は、独立行政法人化以降、中期目標に掲げる「芸術及び文化に関する専門の学芸の教授研究を通じて、幅広い教養及び優れた技能を有する人間性豊かな人材を育成し、もって芸術の創造、文化の進展及び地域社会の発展に寄与する」ことを目標とし、その達成に向け、年度計画を着実に実行している。
- ・特に、「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」では、これまで、「サービ斯拉ーニング」の開設、竹田市の廃校を利用した「竹田キャンパス」の活用、自治体や企業等との連携など、地域と密接に関わろうとする姿勢が感じられ、委員会としても高く評価をしている。
- ・他にも、美術科にプロダクトデザインの科目を新設し、キャリア能力の育成に力を注いだこと、芸術系学科に学士の学位取得や大学院への進学が可能となる2年制認定専攻科を新設したことなど、理事長のリーダーシップのもと教職員が一

体となって、取組を進めていることは評価できる。

- ・中期目標期間（H18～H23）の最後の1年だが、中期目標・計画の達成に向け着実に取り組んでいただくことを要望する。

また、今後も、社会情勢の変化や学生のニーズを的確に捉え、県立大学として大学に求められる役割を明確にし、次期中期目標・計画の策定を進めていただくとともに、更に、地域に期待される魅力ある大学づくりの取組を期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評価並びに情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

2 大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、83項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、美術科における、生活造形の授業へのプロダクトデザインの組み入れや、国際文化学科における「観光ビジネス英語」の導入など社会情勢の変化や学生ニーズに応じたカリキュラムの見直し、特別講座として、地域住民が参加できる「ふるさとスケッチ」や「国際文化フェスタ」などを実施したこと、「地域活動室」の指導を通じ、地域活動が活発化したこと、学士の学位取得や大学院への進学が可能な2年制認定専攻科を新設したこと、研究資金の獲得に向けての積極的に取り組んだことなど、計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
- (I-1-(1)ア(ア) a)【2】
(I-1-(1)ア(ア) f)【2】
(I-1-(1)ア(ウ))【2】
- 教育内容の充実（教育課程）
- ・芸術系と人文系の学科からなる特長を生かし、共通教育部門に「造形入門」、「スペイン語」などを開講した。
 - ・アルゲリッチ音楽祭ピアノコンサートをはじめ「特別芸術文化鑑賞」や「あしなが学生募金」などの地域における芸術文化活動、地域イベントへの積極的に参加した。
 - ・全学生が情報処理の基礎的な知識と技能を身につけるため、「情報機器演習」及び「情報処理入門」を開講した。
- (I-1-(1)イ(ア))【2】
- 教育内容の充実（専門教育）
- ・キャリア能力の育成に力を入れ、美術科に、プロダクトデザイン分野の科目を新設した。
- (I-1-(1)イ(イ))【2】
- 教育内容の充実（芸術系学科）
- ・社会的活動に積極的に参加する意欲と実践力を育てるため、「竹田キャンパス」を利

用した県内高校との制作活動や空き店舗を利用した美術科収蔵作品展を開催するなど画学生の参加を支援した。

(I-1-(1)イウ)【2】

○教育内容の充実(人文系学科)

・「サービスマーケティング」の開設やインターンシップの単位化など、地域社会との連携を強化し、社会的活動に積極的に参加する意欲と実践力を育成した。

(I-1-(1)イエ)【2】

○教育内容の充実(専攻科)

・学士の学位取得や大学院への進学が可能な2年制認定専攻科を新設した。

(I-1-(3)イウ)【2】

○教育活動の広報

・専任の担当者を配置した広報室を設置し、ホームページ等を通じ広報活動を展開したほか、マスコミへの情報提供を積極的に行った。

(I-1-(4)イアc)【2】

○入試選抜方法の改善

・音楽科推薦入試募集定員を5割から6割に変更した。

・美術科において、デザイン専攻生活造形コースにプロダクトデザイン分野を新設し、工業デザインを志望する学生の受入れを可能とした。

・志願者、入学者の増えた専攻科について、造形専攻定員を15人から24人に、音楽専攻定員を15人から20人に改定した。

(I-1-(4)ウアabe)【2】

○大学の知名度向上の取組

・大学ホームページで大学案内の動画が閲覧できるようし、大学の特色を視覚的に理解できるようにした。

・学生を全国から確保するため、県内高校はもとより県外の多数の高校に対し、高校訪問を実施し大学のPRを図った。

(I-1-(5)イアabc)【2】

○進路支援体制の確立

・「就職指導室」を「進路支援室」に改組し、職員を1名増やしたことで、常時学生の進路相談に応じる体制を構築した。

・インターンシップの実施体制及び実施計画を整備した結果、協力企業及び学生の受入れ人数は中期目標期間内で増加した。

(I-2-(2)アウ)【2】

○外部研究資金の獲得に向けての取組

・学内説明会で応募を呼びかけることにより、積極的な応募を行った結果、総務省、文化庁の補助金を獲得した。

(I-3-(1)アイb)【2】

○公開講座の実施

・県及び各自治体と連携し、多数の学外講座や演奏会を実施した。

(I-3-(1)イアabc)【2】

(I-3-(1)イイ)【2】

○地域社会等との連携

・県及び各自治体の各種審議会に積極的に参画した。

・連携協定を由布市、竹田市、大分市と締結し公開講座等を実施した。また、竹田市の廃校となった小学校を利用した「竹田キャンパス」を、市民と学生の交流拠点として様々な利用形態で活用した

・毎日新聞西部本社、テレビ大分等の各企業等と協定を締結し、寄付講座の開講や大学施設の貸出しなど相互に協力を行った。その他多数の関係機関と連携し研修会やセミナーなどを開催した。

I-3-(2)イ(イ)cd)【2】

○学生の海外留学

・海外5カ国（イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国）の協定校で海外語学実習を実施した。

・交流協定を締結した中国江漢大学に、学生1名を交換留学生として派遣した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	79(27)			55(6)	24(21)
研究	20(2)			16	4(2)
社会貢献	25(13)			17(6)	8(7)
合計	124(42)			88(12)	10(10)
ウエイト考慮 後の合計	166			100	66

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、124項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

○地域とのコミュニケーションというか、密接に関わろうとする姿勢が感じられる。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、18項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、目的積立金を財源とした特別枠重点事業を創設したこと、教育、研究、社会貢献及び組織運営の4領域について、自己評価及び教員評価委員会評価からなる教員評価規程を整備したことなど、計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(Ⅱ-1-(2)a)【2】
- 学内資源の効果的配分
 - ・目的積立金を財源とした特別枠重点事業を創設した。
(Ⅱ-2-(2)abc)
 - 教員評価制度
 - ・教育、研究、社会貢献及び組織運営の4領域について、自己評価及び教員評価委員会評価からなる教員評価規程を整備した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	9(1)			8	1(1)
人事の適正化	9(1)			8(1)	1
合計	18(2)			16(1)	1(1)
ウエイト考慮 後の合計	20			17	3

(注) ウエイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、18項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、12項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、外部研究資金の獲得に向けて積極的に取り組み、新規の外部資金を獲得できたことなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
(Ⅲ-1-e)
- 管理的経費の抑制
・光熱水費等管理的経費の抑制に全学的取り組んだ結果、平成22年度は学生数が増加し、また、学内施設の県民への開放など使用時間が増加したにもかかわらず、管理的経費は微増にとどめることができた。
(Ⅲ-2-(2)a)【2】
- 自己収入の確保
・国立大学法人をの額を考慮し、授業料、入学審査料、入学料の改定を行った。また必要経費を考慮した公開講座受講料や施設使用料を設定し、受講者及び利用者に適正な負担を求めた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	5 (1)			4	1 (1)
外部資金等の 獲得	4 (1)			3	1 (1)
資産の適正管 理・有効活用	3			3	
合 計	12 (2)			10	2 (2)
ウエイト考慮 後の合計	14			10	4

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、12項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、広報室を設置し、大学の活動状況を広報誌やホームページに掲載するとともに、定期的かつ随時にマスコミリリースを行った結果、メディアを通じて多くの記事やイベント情報が県民に紹介されたことなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
- 小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
- なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
- (Ⅳ-2-(1)be)【2】
- 情報公開の推進
- ・広報室を設置し、大学の活動状況を広報誌やホームページに掲載するとともに、定期的かつ随時にマスコミリリースを行った結果、メディアを通じて多くの記事やイベント情報が県民に紹介された。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	2			2	
情報公開	5(2)			3	2(2)
合 計	7(2)			5	2(2)
ウエイト考慮 後の合計	9			5	2(2)

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、5項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、学内の安心・安全対策として、防災・防犯等対策マニュアルを策定し、教職員に周知徹底を図ったこと、不審者対策として警備員の巡回を強化、非常用警報装置を追加設置したことなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
- (V-2b)【2】
- 学内の安心・安全対策
 - ・防災・防犯等対策マニュアルを策定し、教職員に周知徹底を図った。
 - ・不審者対策として警備員の巡回を強化、非常用警報装置を追加設置した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	1			1	
安全管理	6 (1)			5	1 (1)
人権啓発推進	1			1	
合 計	8 (1)			7	1 (1)
ウエイト考慮 後の合計	9			7	2

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、5項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし